

東京 2020 パラリンピック聖火「世田谷の火」採火式 区長挨拶

皆さん、おはようございます。世田谷区長の保坂展人です。

本日は長雨が嘘のように晴れて、真っ青な空が広がりました。

これから東京 2020 パラリンピックの聖火につながる「世田谷の火」の採火をいたします。

パラリンピック聖火は、日本中の各自治体が様々な方法で火をおこし、その火が一つにまとめられて完成いたしますが、世田谷区では、ここ世田谷公園にある、こちら私の上にあります「平和の灯(ひ)」から採火いたします。

世田谷区は、核兵器の廃絶と世界に平和の輪を広げていくことを誓い、終戦 40 年の日にあたる昭和 60 年 8 月 15 日に、国の内外に向けて『平和都市宣言』を行いました。

平和都市宣言 5 周年の平成 2 年 8 月には、広島市の「平和の灯(ともしび)」と長崎市の「誓いの火」とともに、区民や団体の火も合わせまして、彫刻家の向井良吉(むかいりょうきち)氏に作成していただいたのが、この「平和の灯(ひ)」でございます。

ここ世田谷公園には、「平和の祈り」の像や、広島・長崎で被爆した木の二世「被爆二世の木」などの平和への願いを込めたモニュメントがあります。

また、戦争から 70 年を経た平成 27 年 8 月 15 日に平和資料館をこの世田谷公園内に開設をしました。大きな犠牲と悲劇を生んだ太平洋戦争の記憶を後世に伝えていくとともに、愛称を、次世代にその記憶を渡すという意味で、せたがや未来の平和館として、多様な戦争と平和の情報発信を行っております。現在は「1964 年 東京オリンピックから未来へ受け継ぐレガシ-」の企画展も開催しております。

さて、世田谷区はアメリカ合衆国の先導的共生社会ホストタウンとして、ユニバーサルデザインのまちづくりや心のバリアフリー化、ボッチャをはじめとしたパラスポーツの推進に取り組んでいます。

東京 2020 大会を契機にいたしまして、国や地域、人種、性別、障害等乗り越えた多くの人達の出会いを通して、スポーツ、文化の交流の輪を広げ、多文化・多様性を理解し包摂する、「共生のまち せたがや」の実現を目指してまいります。

これから採火する「世田谷の火」は、そうした想いや願いを込め、全国から様々な思いが込められる火と合わさって、8 月 23 日世田谷区の砧公園ねむのき広場で開かれる点火セレモニー、そして 24 日の東京 2020 パラリンピック競技大会開会式につながってまいります。

これから採火を始めさせていただきます。